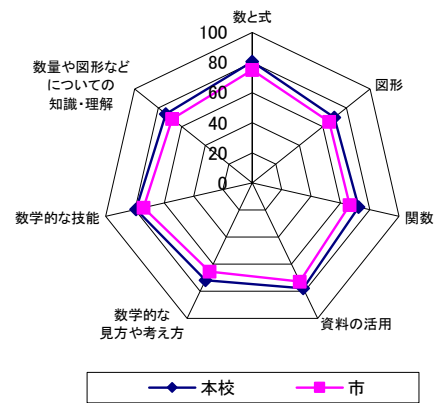


宇都宮市立豊郷中学校 第3学年【数学】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と式	80.6	75.0	70.3
	図形	69.6	65.2	63.4
	関数	72.5	66.4	51.5
	資料の活用	77.8	72.8	63.9
観点別	数学的な見方や考え方	71.8	65.5	55.1
	数学的な技能	79.3	74.2	67.5
	数量や図形などについての知識・理解	73.5	68.3	64.1

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と式	平均正答率は、すべての設問において市の平均を上回っており、領域全体では4.4ポイント上回っている。 ○記述形式の設問において、正答率が市の平均を6.1ポイント上回る82.7%に到達し、これまでの課題としていた事が改善されている。 ●2次方程式において、解に根号が含まれる正答率が65.5%と市の平均を上回っているものの2次方程式と根号に対する理解がまだ不足していると思われる。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの 今後の指導の重点 ・2次方程式や連立方程式などで、指定された解き方で解けるように、苦手とする解き方が出ないように、授業時数の配分や補充問題などを考える。 ・計算や方程式を解くなど、基本的なことはさらにスキルアップできるよう、問題数や時間などを考えて取り組むようにする。
図形	平均正答率は、一問を除いて市の平均を上回っており、領域全体では4.4ポイント上回っている。 ○三角形の合同の証明や相似の証明に関する問題では、市の平均正答率を6.2ポイント上回っている。 ●図形の性質と証明に関する問題の「仮定と結論に関する問題」では、この領域で唯一、市の平均を0.2ポイント下回っている。	・空間図形に関する基本的な内容(特に体積や表面積を求める問題)をしっかり身につけさせるため、形に着目して求め方が定着するようにする。 ・空間図形は1年生の後半、および3年生の後半で教科書に出てくる内容であり、2年生ではあまり触れる機会がなかったため、意図的に他の単元と融合した形で問題を準備し、取り組む時間を取り入れ空間図形への苦手意識をなくしていきたい。
関数	平均正答率は、すべての問題で市の平均を上回っており、領域全体では6.1ポイント上回っている。 ○2次関数の傾きを求める問題では、市の平均正答率を11.5ポイント上回っている。 ●関数のグラフを根拠に、主張の誤りを説明する問題では、市の平均を上回っているものの正答率が55.4%と本校としては若干低めの数値であった。	・どの関数でも、xとyの関係を式で表したりグラフに表したりする力は、おおむね身につけている。ただ、それに関連付けて考える問題が苦手な生徒が多い。そのため、関数の単元の後半に十分に問題演習の時間を確保し、多くのパターンの問題に慣れるようにする。また、図形との融合問題も多くあるため、関数だけでなく図形の単元の際にも、問題演習を取り入れ、考え方に慣れるようにしていきたい。
資料の活用	平均正答率は、すべての問題で市の平均を上回っており、領域全体では5.0ポイント上回っている。 ○資料の活用に関する問題の正答率が高く、特に相対度数を求める問題での正答率は、市の平均を9.0ポイント上回っている。 ●確率を求める問題での正答率は約88%であったが、90%以上の正答率が望まれる問題である。	・相対度数、平均値、中央値、最頻値、範囲などの意味をしっかりと把握できるよう、2年生や3年生になっても、折を見て復讐するようにしていきたい。 ・確率の問題では、順番が関係する場合、組み合わせを考えればよい場合にしっかり分けて考えられるよう、様々な問題場면을授業の中で取り入れていきたい。 ・確率の問題場面の読み違いが多いので、似たような問題場面を用意し、違いを意識させながら取り組むことで意識できるようにしたい。